

Title	日朝両言語における依頼表現の違い
Author(s)	河村, 光雅
Citation	日本語・日本文化. 1999, 25, p. 47-62
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/10291
rights	本文データはCiNiiから複製したものである
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

<研究ノート>

日朝両言語における依頼表現の違い

河村 光雅

0. はじめに

朝鮮語と日本語は文の構造上で非常に似通っており、多くの日本語の文型とそれに相当する朝鮮語の文型がしばしば同じ文構造で存在する。今回取り上げる依頼表現¹⁾の中でも代表的な、「～テクダサイ」という日本語の文型を例にとっても、それに相当する朝鮮語「～아/어 주세요」は、形式上「動詞の連用形+주다(くれる・あげる)の丁寧な命令形」というほぼ日本語と同じ構造を取っている。また、用法上もこの「～아/어 주세요」は日本語の「～テクダサイ」で言い換えられる表現である。また、待遇レベルに応じて「～テクダサイマセンカ」「～テクレナイ?」「～テクレ」など「クレル」を使った数多くの依頼表現のバリエーションがあるが、朝鮮語でも「주다」に丁寧さを表す接辞や否定の接辞をつけて同じ文型にすると、日本語の待遇レベルとほぼ同等の依頼表現になる。

上のような「～テクレル/クダサル」型依頼表現だけ見れば、朝鮮語話者による依頼表現の戦略上の間違いはそうそう起こらないと考えられるのに、実際は彼らの日本語依頼表現が失礼に響いたり、時には依頼表現として通用していないという現象さえしばしば見られる。その原因のひとつは、「～テクレル/クダサル」型以外の依頼表現で日朝両言語の間に意味・用法のずれがあるせいだと考える。

「～テクレル/クダサル」型以外の朝鮮語の依頼表現が日本語に直訳して使われた時、同じ待遇レベルになかったり、日本語では依頼表現として使われない文型だったりすることに由来する誤用なのである。

本稿ではそうした「ずれ」が起こる例に注目し、文型別に整理してみた。どのような背景での発話なのかを確認することで待遇レベルをより正確につかむという目的から、映画や漫画のような映像情報を含んだ資料を多く扱っている。韓国

映画と日本語字幕、日本の漫画とそれらの朝鮮語翻訳などを比較しつつ、日朝の同じ文構造を持った表現の間でどのようなずれがあるのかを見当していく。

1. 「～テモラウ/イタダク」

日本語の「クレル」が補助動詞として「～テクダサイ」「～テクダサイマセンカ」「～テクレ」といった依頼表現によく使われるように、「クレル」に当る朝鮮語の動詞「주다」も依頼表現によく現れる。ところが、日本語の場合は「～テイタダケマセンカ」「～テモラエマスカ」のように「モラウ/イタダク」も補助動詞として依頼表現に使われるのに対し、「モラウ」に当る朝鮮語の動詞は日本語のように補助動詞としては機能せず、依頼表現にも使われることがない。

荻野他 (1990) では待遇レベルの違う 26 の日朝両言語の依頼表現について、どの相手にどの表現を使うか社会言語学的調査しているのだが、ここでの依頼表現リストにおいて最も待遇レベルの高い表現は、日本語「～テイタダケマセンカ」に対して朝鮮語「～주시겠습니까? (くださいますでしょうか)」となっている。このリストによれば日本語においては「～テモラウ/イタダク」型の依頼表現が同じ文型の「～テクレル/クダサル」型表現より常に待遇レベルの上位に置かれており、たとえば「～テイタダケマセンカ」は「～テクダサイマセンカ」より、「～テモラエマスカ」は「～テクレマスカ」より上位の待遇レベルとして扱われている。つまり、「～テモラウ/イタダク」型の依頼表現が無い朝鮮語を日本語に直訳した場合、話者の意図するほど高い待遇レベルの表現にはなっていないということが起こりがちなわけである。

では、例えば「～テイタダキマス」のように「クレル」を使った同じ文型（「～テクダサイマス」がこれに相当）が依頼表現として機能しない場合、すなわち、単純に「モラウ」を「クレル」で置き換えられない文型については、やりもらいの補助動詞の体系が異なる朝鮮語においてどのような表現が対応しうるのだろうか。

この「～テイタダキマス」の用法のひとつは、予定に沿った行動を指示・案内するような場面、たとえば、観光ガイドが「今から天守閣内部を御覧いただきます」と客を案内したり、「次は～さんの歌を聞いていただきます」というふうに

司会が進行を説明したりする際によく使われる表現である。こうした場面でよく使われる朝鮮語表現のひとつが、次に挙げる「～시켰습니다 (～なさるでしょう／なさいます)」である。授受動詞を含んだ「～테이타ダキマス」と授受動詞を含まない「～시켰습니다」という形式上異なる表現が対応することになる。

- (1) 그림 다시 한번 VTR 를 보시켰습니다. (NHK テレビハングル講座'98、第12課から)

〈直訳〉では、もう一度 VTR を御覧になります。

〈意識〉では、もう一度 VTR を御覧いただきます／御覧ください。

上の例はテレビハングル講座で講師がスキットを見る直前に言った文であるが、朝鮮語からの直訳では日本語の依頼表現として機能しないことがわかる。

日本語の「～テクダサイ」に当る朝鮮語は大きく二つの文型に分けられる。話者の利益を目的とした依頼の場合は「～아/어 주세요 (～てください)」のような授受動詞「주다」を含んだ表現を使い、指示や勧めといった話者の利益と無関係な場面では授受表現を含まない丁寧な命令形「～세요 (お～なさいませ)」を使うという説明が広くなされている。日本語の方では次第に「お～ナサイマセ」が「～テクダサイ」に取って代わられており、現在では「～テクダサイ」がもっぱら依頼にも指示・勧めにも使われている。授受動詞を含まない(1)の「～시켰습니다」も「～세요」と同じ指示・勧めの表現であると言えるが、「～시켰습니다」は「～세요」と異なり形式上命令形になっていない。そのせいか「～세요」が日本語の「～テクダサイ」に相当するという点は朝鮮語話者にも浸透しているのに比べ、「～시켰습니다」も同様に「～テクダサイ」に相当する用法があるという点はあまり指摘されていないように思う。

また、「～시켰습니다」の疑問形「～시켰습니까?」も依頼表現に使われることがある。

- (2) 저와 한판 하시겠습니까? 《シテ》

〈直訳〉私と一勝負なさいますか。

〈原文〉さしでお相手願えますか。

(カジノ)のルーレットで勝ち続けている男に近づいた主人公が、今度は自分と勝負してみないかと誘う場面)

疑問文にすると、やりもらいの補助動詞の無い直訳の日本語でも誘いかける文として一応機能する。しかし原文と日本語の直訳を比較すれば分かるように、この二文は待遇レベルが異なっており、朝鮮語からの直訳の方はこの場面にそぐわない。もし、上の場面と違ってテーブルで元々ルーレットをしていたのが話者の方であったのなら、「私と一勝負なさいますか」という形の誘いかけでも問題がないであろうが、この場面のようにそれまで勝負の中心にいた聞き手の男に向かって発せられたとすると、非常に傲慢な響きを持つ誘いかけに聞こえてしまう。この場面に合った日本語の表現としては、やはり原文の「お願いします」のようなもっとへりくだった依頼表現や、やりもらいの補助動詞を使った依頼表現「お相手していただけますか」などになるだろう。こうした「誘う」場面でのどのような表現をとるかについては、話者と聞き手と間でどちらがその場のイニシアティブを持つ優位な立場にあるかが日本語では重要であるのに対し、朝鮮語ではそうした立場の違いはあまり関与していないと思われる。この立場の違いと依頼表現の関係については、日本語「～マシヨウ」とそれに相当する朝鮮語の表現を比べた次章でもう一度触れる。

ここまで見てきたように、日本語の「～テクダサイ」に代表される授受動詞を含んだ依頼表現の使用範囲は、話者の利益を目的とする厳密な意味での「依頼」だけでなく「指示・勧め」、あるいは「勧誘」にまで広く分布している一方、朝鮮語の方は「依頼」か「指示・進め」なのかの違いによって授受動詞を使うか使わないかの区別をしている。「～テクダサイ」のような授受動詞を使った日本語の依頼表現がどれくらいの範囲の朝鮮語表現に対応するのかを見てみると、上で述べたような授受動詞を使わない朝鮮語表現にまで広がっているだけでなく、日本語では依頼表現として使わない朝鮮語文型にも及ぶのがわかる。以下章を追ってそうした例を文型ごとに見てみよう。

2. 「～マシヨウ」と「～하시다」

朝鮮語の「～하시다」は日本語の「～マシヨウ」という勧誘の表現に相当するのだが、相手に行動を要求する場面でも使われることがある。このずれについてはしばしば指摘されており、「～하시다」が「～テクダサイ」に相当することが

あると言われている。たとえば、こみあったバスや電車から降りようとする時に「내림시다 (降りましょう)」と言って、道を空けてもらうことなどがよく例にあげられてきた²⁾。「~日시다」が「誘い」ではなく「依頼」として使われている他の例を見てみよう。

(3) 언니, 돈 좀 돌려 씀시다. (あな)

〈直訳〉姉さん、お金ちよっと回して使いましょう。

〈字幕〉義姉さん、私にお金貸して。

(4) 불 좀 빌립시다. 《シテ》

〈直訳〉火、ちよっと借りましょう。

〈原文〉火あるか。貸せよ。

韓国で出された日本語学習者のためのテキストの中にもこのずれについての指摘があり、日本語の「~マショウ」が朝鮮語の「~日시다」とは異なり「話者と聞き手がいっしょにそれを行う場面でしか使われない」と注意を促している³⁾。つまり、聞き手だけに行動を求める時には「~マショウ」と直訳せずに「~テクダサイ」を使いなさいというわけだが、しかしこれだけでは誤用をさけるのに充分な説明とは言えない。つまり、日本語の「~マショウ」が話者と聞き手の双方に同等の利益をもたらす行為でなければ使えないのに対し、朝鮮語の「~日시다」は話者の利益だけを目的に発せられてもよい表現だからである。

(5) 이 일은 성님하고 나하고 비밀로 힘시다. 부탁하요. (灼熱)

〈直訳〉この事は兄さんと私との秘密にしましょう。お願いします。

〈字幕〉これは二人だけの秘密にしてください。

このせりふは、ある作戦に失敗し警官らに嘲笑されながら担架で運ばれる特殊部隊の作員が、その作戦を依頼した警察署長に向けて自分の惨めな失敗を広言しないでくれと哀願する場面で使われたものである。確かに「秘密にする」こと事実は話者と聞き手の双方に関わる行為なのだが、この場面のように「秘密にする」ことが話者だけの利益のためにある時に、日本語では「~マショウ」を使って聞き手にそれを要求することはできない。上の例の「秘密にしましょう」という直訳では、日本語としては自分の立場をわきまえない図々しい発言と取られてしまいかねず、依頼表現としては失敗である。朝鮮語においてもこの「~日시다」

を使った依頼表現はやや品の無い頼み方とされているものの一応依頼表現として成立するのに対し、日本語の「～マショウ」を(5)の場面で使うなら依頼の戦略上失敗していると言える。

3. 「～タライノニ」と「～면 좋겠다」

この文型は日朝両言語ともに話者の希望を表す場面で使われる。

(6) **아빠가 빨리 왔으면 좋겠다.**

パパが早く帰ってくればいいのにな。(朝辞)

(7) **가을이 오면 좋겠다.**

秋が来ればいいなあ。(大辞)

「～면 (～たら)」の後ろに続く「 좋겠다 (いいだろう)」は、この文型に「하다 (思う)」が後続する時しばしば省略されることがある。

(8) **날이 따뜻하면 한다.**

天气が暖かければと思う。(大辞)

ところが「～면 좋겠다」は、上のように三人称主語で話者の希望を表すだけでなく、二人称を主語に置き、聞き手に行動を要求する表現としてもこの文型が使われる。二人称を主語においた朝鮮語の「～면 좋겠다」は婉曲で丁寧な依頼表現になるとされているが、直訳した日本語からその丁寧さを感じ取ることは難しい。

(9) **좀 태워 주었으면 해서요.** (鯨と)

〈直訳〉ちょっと乗せてくれたらと思って。

〈字幕〉乗せてもらいたい。

(ヒッチハイクで旅をしようと、トラックの運転手に乗せてくれるよう頼む場面)

(10) **꼭 좀 들어 주셨으면 좋겠어요.** (ミス)

〈直訳〉ぜひちょっと聞いてくださったらいいんですが。

〈字幕〉聞いていただけますか。

(内密に話をしようとする場面)

(11) **2시쯤 오셨으면 하시거든요.** (豚が)

〈直訳〉2時頃いらっしゃったらとおっしゃってるんですが。

〈字幕〉接客中なので2時頃来ていただけないかと。

(商談に訪れたセールスマンに対して、上司は今応じることはできないと秘書が言う場面)

(12) 나 좋아했으면 좋겠어요. (ミス)

〈直訳〉ぼくを好きだったらいいんですが。

〈字幕〉振り向いてほしい。

(女性に好きだと告白する場面)

こうした元の朝鮮語のせりふと日本語字幕の表現上の違いが字幕の字数制限から来るのではないことは、次の日本語から朝鮮語への訳を通して確認できる。

(13) 나를 환자 취급 안 해줬으면 좋겠군. 《クレ》

〈直訳〉ぼくを患者扱いしないでくれたらいいんだけど。

〈原文〉ぼくを患者扱いしないで欲しいな!

(14) 내 곁을 떠나지 말았으면 좋겠는데. 《羊》

〈直訳〉私のそばを離れなかったらいいんだけど。

〈原文〉私のそばを離れないで。

日本語の「～タライイノニ」は、「秋が来ればいいのに」のような自然現象や「もっと早く来ればいいのに」のような非現実についての希望、すなわち話者のコントロールが及ばない事柄についての希望を述べる時に使われる。そこから「～タライイノニ」には実現することはあきらめたというような恨みがましいニュアンスが生じ、二人称を主語に置いた文では相手への非難に聞こえることもあるのだが、「～면 좋겠다」を使った(9)～(14)の朝鮮語文からはそのようなニュアンスは感じられず、単なる依頼表現として機能していることがわかる。

これらの例の直訳を見ると(9)(10)(13)のように授受動詞が使われている時は、なんとか聞き手に対する要求であると理解することはできるが、(11)(12)(14)のように授受動詞が無い文では聞き手に対する要求であると理解することさえ難しい。「あなたが」という主語が明記されていないので誰か第三者について「そうしてくれたら」という期待を述べているようにも聞こえるし、たとえ「あなたが」という主語を補って解釈したとしてもやはり非難めいたニュアンス

が残るため、依頼表現として充分丁寧な表現とは言えない文になっている。

4. 「～テハイケマセンカ」と「～면 안돼요?」

この文型は日本語でも朝鮮語でも聞き手から許可を得る場面で使われるのだが、日本語ではもっぱら一人称を主語に置き自分の行動の許可を求めるのに使われるのに対し、朝鮮語の方ではそうした用法だけでなく、二人称主語で聞き手に行動を要求する用法もみられる。

(15) 이 상금 저 좀 빌려주시면 안돼요? (祝祭)

〈直訳〉この賞金私にちょっと貸して下さってはいけませんか。

〈字幕〉賞金を貸してくれない?

(親族を題材に私小説を書いて賞をもらった伯父に、自分も小説に書かれたのだからとお金を無心する場面)

(16) 조금만 더 있다 가주면 안돼요? (トウ)

〈直訳〉もうちょっとだけ居てから行って来てはいけませんか。

(仕事に出かけようとする恋人の男性にもう少しいっしょに居てくれるよう頼む場面)

朝鮮語からの直訳を見ると、日本語として非常にわかりにくい文であることがわかる。主語を一人称に代えて「クレル」ではなく「モラウ」を使い「お金を貸してもらってはいけませんか」とすれば、あるいは「お金を借りてはいけませんか」とすれば少しは依頼表現らしく聞こえるかもしれないが、二人称主語を主語に置いた直訳のような文では依頼表現として容認しがたい。「お金を貸してください。だめですか?」と二文に分ければ容認できる依頼表現となるせいか、それを一文にした「貸して下さったらだめですか」が自然な依頼表現でないことに学習者は気づきにくいようだ。

5. 「～ナケレバナリマセン/イケマセン」と「～어야 합니다/됩니다」

「～어야 합니다/됩니다」という文型は、「～ナケレバナラナイ」という日本語に相当する義務・当然を表す表現なのだが、朝鮮語の方は依頼の場面でも頻繁に使われる。日本語の「～ナケレバナラナイ」も相手に行動を要求する場面で使う

ことはできるが、使われる範囲がこの日本語と朝鮮語の「~어야 합니다/됩니다」で同じではない。朝鮮語から日本語へ、日本語から朝鮮語への訳を見てみると「~어야 합니다/됩니다」が「~ナケレバナリマセン」に対応していない例が多く、日朝両言語で用法がかなり違うことがわかる。

まず、「~어야 합니다/됩니다」の訳に「~テクダサイ」が当てられている例を見てみよう。

(17) 모두 서로 가 주셔야 하겠습니까. (灼熱)

〈直訳〉 皆さん署に行ってくださいらなければなりません。

〈字幕〉 署まで来てください。

(乱闘に関わった人たちに向かって警官が言ったせりふ)

(18) 월말까지 기다리셔야 됩니까. (豚が)

〈直訳〉 月末までお待ちにならなければなりません。

〈字幕〉 月末まで待ってください。

(原稿料を前借りしようとした作家に向かって編集者が言ったせりふ)

(19) 빨리 일어나셔야 돼요. (豚が)

〈直訳〉 早くお起きにならなければいけません。

〈字幕〉 早く起きてくださいね。

(モーニングコールサービスの女性が依頼者に言ったせりふ)

上の例では、確かに直訳の「~ナケレバナラナイ」よりも柔らかなニュアンスの「~テクダサイ」の方が字幕としてふさわしいと思われるものの、純粋な依頼というより「~ナケレバナラナイ」に通じる義務・当然のニュアンスがある依頼表現であることが場面からわかる。厳密な意味での「依頼の場面」ではないことは、上の3つの例がどれも話者の利益を目的に「~テクダサイ」という文が発せられているのではないことから言える。(17)は事情聴取のために警察に行くよう言っている場面であり、義務として行くよう要請していると言えるし、(18)はこのせりふの直後に「1ウォンも期日外に払うわけにはいかない」と、それが規則であることを強調しており、支払いを待つのは当然だという文脈で言われたせりふである。(19)も相手の依頼に答えて起こしているのだから、厳密な意味での「依頼」ではないと言えるだろう。ごく親しい相手なら、あるいは何度促しても

なかなか起きない相手に向かってなら日本語でも「早く起きなきゃいけませんよ」と言えるかもしれないが、上のせりふはモーニングコールを頼んできた顔も知らぬ相手に対し、「おはようございます」とあいさつした直後に発せられたせりふであるから、日本語の「～シナケレバナラナイ」型の表現では待遇上問題があると思われる。

上の例が朝鮮語として待遇面で充分丁寧なことは、場面の流れやイントネーション、敬語とともに使われている点などから分かるのであるが、日本語の「～ナケレバナラナイ」よりもずっと丁寧な表現であることを、日本語から朝鮮語への翻訳を通して確認してみよう。

(20) 사흘마다 청산을 해주셔야만 하기 때문예요. 《羊を》

〈直訳〉三日ごとに清算してくださらなければいけないからです。

〈原文〉一応三日ごとに清算していただくことになっておりますもので。

(ホテルのフロント係が客に支払いのシステムを説明する場面で)

このせりふの聞き手である客は今からこのホテルに泊まろうとしているのであって、別に支払いが滞っていたわけではない。一ヶ月という長い滞在予定だと聞いたフロント係が「お支払いは三日ごとをお願いします」という旨を婉曲に伝えたせりふである。直訳から感じるような非難のニュアンスは元の朝鮮語には無いのである。

こうした「～야/어야 합니다/됩니다」の使い方は、待遇面でのニュアンスは日朝で異なるものの、日本語の「～ナケレバナラナイ」の原義とつながりのある用法、すなわち話者の利益のためでなく、聞き手のため、あるいは規則を理由にそうしてくださいと要求している例だと言えるが、一方でこの「～어야 합니다/됩니다」がもっぱら話者のために行動を要求する場面でも使われている例もある。

(21) 편지 주어야 돼! (外人)

〈直訳〉手紙くれなきゃだめよ!

〈字幕〉必ず手紙ちょうだい!

(しばらくの間遠くに行くことになった恋人との別れの場面で、去ってゆく恋人の背中に向かって泣きながら言ったせりふ)

(22) 빨리 좀 나와주셔야 되겠어. (小さ)

〈直訳〉早くちよっと出てきてくださらなきやいけません。

(子供が自殺を図ったことを知り、その母親が助けを求めて隣家の戸をたたきながら言ったせりふ)

(22) の例では「出てきてくれる」よう求める原因は完全に話者の方にあるにもかかわらず「~어야 합니다/됩니다」という表現が使われている。(22) の日本語直訳からすると、まるで自分の子供のために言っているのではないように聞こえる。それは、日本語の「~ナケレバナラナイ」という表現が、話者の利益のために行動要求する場合には使えないためである。

一方朝鮮語の「~어야 합니다/됩니다」は、切羽詰まった話者のお願いとして機能している。これらのせりふは全て叫ぶようにして発せられており、「必ず、ぜひとも~して欲しい」という気持ちからこの文型が選ばれていると考えられる。

今度は、日本語から朝鮮語への翻訳を例に見ながら、この「~어야 합니다/됩니다」のニュアンスをさらに探ってみよう。

(23) 그래, 도주를 위해 인질이 좀 돼 줘야겠어. 《シテ》

〈直訳〉そうよ、逃走のために人質にちよっとなってくれなきや。

〈原文〉そうよ、逃走のための人質になってもらうぜ。

(24) 5 억은 주셔야지. 《シテ》

〈直訳〉5億はくださらなきや。

〈原文〉5億出してもらおう。

(25) 이것만은 꼭 들어주셔야 합니다. 《オズ》

〈直訳〉これだけは絶対聞いてくださらなければなりません。

〈原文〉これだけは聞いていただきます。

「~テモラオウ」や「~テイタダキマス」を使った上のような日本語の依頼表現のニュアンスは、かなり押しの強い要求、いわば強制に近い依頼表現だと言える。これらの例を厳密な意味で「依頼表現」と言っているのか疑わしいが、別の例を見ると、「~テモラオウ」や「~テイタダキマス」より柔らかな「~テクダサイ」という表現の訳にも、しばしば「~어야 합니다/됩니다」が当てられているのがわかる。

(26) 그럼 이번엔 잘 들으셔야 합니다. 《クレ》

〈直訳〉じゃ今度はちゃんとお聞きにならないければなりません。

〈原文〉じゃ今度はちゃんと聞いてくださいね。

(愛の告白しようとして何度も相手に話の腰を折られた男性が、むっとしながら言ったせりふ)

(27) 아빠한테 말 안 할 테니까, 액션 가면 사줘야 돼. 《クレ》

〈直訳〉父ちゃんに言わないから、アクション仮面買ってくれなきゃだめ。

〈原文〉父ちゃんにはナイショにしといてあげるから、アクション仮面の変身セット買ってね。

(へそくりをみつけたしんちゃんが、あわてるお母さんに言ったせりふ)

(28) 해 지기 전에 널어놔야 해. 《クレ》

〈直訳〉日が暮れる前に干さなきゃだめ。

〈原文〉日が暮れないうちに干してよね。

(おねしょをしたしんちゃんにお母さんが自分でふとんを干すよう言ったせりふ)

(29) 빨리 돌려 줘야 돼. 《クレ》

〈直訳〉早く返してくれなきゃだめ。

〈原文〉すぐに返してね。

(盗塁せよという監督の指示をこっそり伝えようと「ちょっと耳を貸せ」と言った友達に向かってしんちゃんが言ったせりふ)

(30) 이 일은 비밀로 해줘야 돼, 부탁이야. 《いた》

〈直訳〉この事は秘密にしてくれなきゃだめ、お願い。

〈原文〉このことは内緒にしといてね。お願いします。

(他のクラスの男子生徒と事情があつて同居していることを秘密にしておいて欲しいと女生徒がクラスメートに頼む場面)

上の例のように「～テ (クダサイ) ネ」や「～テ (クダサイ) ヨ」といった日本語に、「～어야 합니다/됩니다」が対応していることが多いのがわかる。つまり「～テクダサイ」という依頼表現に、念押し「ネ」や「ヨ」という終助詞が加わっている時に「～어야 합니다/됩니다」という朝鮮語訳を対応させている。

強制とまでは言えないが、「ネ」や「ヨ」を付けることで依頼をより強く訴えようとしている場面であると言える⁴⁾。

以上のような「~어야 합니다/됩니다」が使われる場面を総合すると、軽い依頼の念押しから、有無を言わせぬ依頼、切羽詰まった依頼、規則を理由にした要請まで、程度の差はあるが総じて普通より押しの強い依頼をしようとする場面での「~어야 합니다/됩니다」という文型が使われていることがわかる。こうしたさまざまな場面に対して朝鮮語は同じ一つの文型「~어야 합니다/됩니다」が使われるのに対し、日本語は「~ナケレバナラナイ」の他にさまざまな文型を使い分けながらその「押しの強さ」の軽重を区別している。日本語の「~ナケレバナラナイ」がかなり強い「要請」でのみ使われることを知らず、朝鮮語話者が軽い念押しのつもりで使ってしまうという間違いがこうして起こりうるのである。

6. 終わりに

今回依頼表現に的を絞って日朝の表現ストラテジーの違いを拾い上げてきたのは、特に依頼の場面においては戦略上の小さなミスが大きなトラブルを呼びかねないと考えたからである。朝鮮語と日本語の依頼表現の違いに気づいていない学習者には、本稿で述べてきたいくつかのポイント、たとえば「~テクレル」より「~テモラウ」の方が待遇レベルが上の表現であること、誘いかける時にはどちらがその行為のイニシアティブを握っているのか注意しなければならないこと、いくつかの朝鮮語の依頼表現についてはその文型に相当する日本語が依頼表現には使えなかったり、待遇レベルが違っていたりすることなどを指摘してやるのが、依頼表現の失敗を避ける上で必要だと考える。

注

- 1) 本稿で言う「依頼表現」とは、日本語の「~テクレル (クダサル)」「~テモラウ (イタダク)」のようなやりもらいの補助動詞を使って聞き手に行動を求める表現を基準に考えている。扱うものの中には、厳密な意味での「依頼」というより「指示」「命令」と言った方がいい表現も含まれているが、ここではそれらの区別は問わないことにし、ひっくるめて「依頼表現」と呼んでいる。

- 2) 朝鮮語辞典 (角川書店) 「日시다」の項にこの「내림시다 (降りましょう)」の例がある。
- 3) 杉村雄次・李蓮玉 (1991) 「틀리기 쉬운 일본어 140」 p114 参照
- 4) 朝鮮語ネイティブに、(26) ~ (30) のせりふを「~아/어 주세요 (〜テクダサイ)」型の依頼表現で言い換えたかどうかと尋ねてみたところ、「押しが弱い」「切羽詰まった感じがしない」「やはり『~아/어야 합니다/됩니다』型の表現の方がこの場面にふさわしい」などの返事が返ってきた。

例文を引用した資料とその略号

朝鮮語が原文の資料は () 内に、日本語が原文の資料は 《》 内に略号を記す

【韓国映画】

- (小) 「난장이가 쏘아올린 작은 공 / 小さなボール」 (字幕なし)
 イ・ウォンセ監督 (1981)
- (鯨) 「고래사냥 / 鯨とり」 ペ・チャンホ監督 (1984)
- (外人) 「외인구단 / 外人球団」 イ・ヒョンセ監督 (1986)
- (神様) 「안녕하세요 하나님 / 神様こんにちは」 ペ・チャンホ監督 (1987)
- (あな) 「단지 그대가 여자라는 이유만으로 / あなたが女だというだけで」
 キム・ユジン監督 (1990)
- (トウ) 「투잡스 / トゥーカップス」 (字幕なし) カン・ウソク監督 (1994)
- (灼熱) 「개 같은 날의 오후 / 灼熱の屋上」 イ・ミニョン監督 (1995)
- (祝祭) 「축제 / 祝祭」 イム・グォンテク監督 (1996)
- (豚が) 「돼지가 우물에 빠진 날 / 豚が井戸に落ちた日」
 ホン・サンス監督 (1996)

【韓国テレビドラマ】

- (ミス) 「미스터 Q / ミスター Q」 韓国 SBS 放送制作

【日本の漫画とその朝鮮語版】

- 《シテ》北条司「シティハンター」 1~3巻 集英社文庫
 (朝鮮語版) 「시터헌터」 도서출판 대원
- 《オズ》樹なつみ「オズ」 第4巻 白泉社
 (朝鮮語版) 「오즈」 대원문화출판사
- 《クレ》臼井儀人「クレヨンしんちゃん」 1~7巻 双葉社
 (朝鮮語版) 「짱구는 못말려」 서울문화사
- 《いた》多田かおる「いたづらなキス」 第1巻 集英社

(朝鮮語版)「장난스런 Kiss」 도서출판 대원

【日本の小説とその朝鮮語版】

《羊を》村上春樹「羊をめぐる冒険」講談社文庫

(朝鮮語版)「양을 쫓는 모험」 문학사상사

【辞書】

(朝辞)「朝鮮語辞典」油谷幸利、門脇誠一、松尾勇、高島淑朗編 小学館

(大辞)「朝鮮語大辞典 上下」大阪外国語大学朝鮮語研究室編 角川書店

参考文献

生越まり子 (1995)「依頼表現の対照研究——朝鮮語の依頼表現——」『日本語学』Vol. 14

明治書院

荻野綱男・金東俊・梅田博之・羅聖淑・廬頭松 (1990)「日本語と韓国語の聞き手に対する

敬語用法の比較対照」『朝鮮学報』第136号

杉村雄次・李蓮玉 (1991)「堂軒奄 習鍾 析沙嬢 140」進明出版社

〈キーワード〉依頼表現、朝鮮語、日朝対照、やりもらい、待遇レベル

Difference in the Expressions of Asking between Japanese and Korean

Mitsumasa KAWAMURA

Koreans who learn Japanese often show the tendency of making light of differences between Japanese and Korean about sentence pattern usage, because the Japanese sentence has a Korean counterpart which is very similar in the point of sentence structure and rough meaning. However, this attitude sometimes causes trouble especially when asking a favor. This paper is concerned with the difference of asking-strategies between the Japanese and Korean languages.

By comparing Korean speech in films with Japanese subtitles, and by also comparing Japanese comic books and novels with their Korean versions, I gathered samples of asking a favor. Through this work, I found that some Korean sentence patterns of asking are more polite than the Japanese counterparts, although both have the same sentence construction, and that some Japanese sentence patterns cannot be used for asking, while Korean counterparts can be.

To avoid making mistakes in the strategy of asking in Japanese, the knowledge of these differences is very helpful to the Korean speakers.